

教育目標

心豊かにたくましく、生き生きと遊ぶ子どもの育成

目指す子ども像

- 心を動かし、夢中になって遊び込む子ども
- 自ら考えて行動する子ども
- 自分の思いを十分に出し、相手の気持ちに気づける子ども
- 粘り強く、最後までやり遂げようとする子ども
- 身近な自然に興味をもち、自然を大切にしている子ども

目指す教職員像

- ・ 子ども一人一人の命を守り切るために行動する教職員
- ・ 子どもや保護者の願いに向き合う教職員
- ・ 一人一人の可能性を引き出し伸ばさせる教職員
- ・ 資質向上に努め、相談し支え合い、高め合える教職員
- ・ 働き方改革を意識し、生き生きと働く教職員

目指す幼稚園像

- ・ 子どもに自信と自立心を育むため、家庭や地域、近隣の幼保小と連携や協働、小学校との接続を推進する幼稚園
- ・ 地域の子育て支援センターとしての役割を推進する幼稚園
- ・ 豊かな経験のできる幼稚園

経営方針

- ・ 子どもが主体的に遊ぶ園づくりを進め、安全・安心な環境づくりを絶えず見直し、改善を図る。
- ・ 一人一人の輝きを大切に、子どもが夢中になって遊び込み、自分の力を発揮し、友達と関わる楽しさや喜びを感じられる保育実践に取り組む。
- ・ 少人数の園だからこそできる保育を考えると共に、異年齢の取組を増やすことで自律性（折り合う心）を育む保育を実践する。
- ・ 教員自身のキャリアステージを意識し、保育の専門性を高め、子どもの育ちを保障していくために、園内研修の充実や園外の研修に参加し実践力を高める。
- ・ 架け橋期プログラムの趣旨の理解に努め、近隣の幼保小との連携、接続を推進し、教員の相互理解に努める。小学校期の学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む。
- ・ 地域の児童館や地域諸団体との連携を図り、未就園児教育相談をはじめ地域の子育て支援センターとしての役割を果たす。
- ・ 保護者、地域に向けて教育活動を発信し、乾隆幼稚園の取組について理解を得るように努める。また学校運営委員会での関係者評価を活用し、教育活動の改善を図る。
- ・ 教職員一人一人が自分の職務に矜持をもち、生き生きと働ける職場づくりを考える。特に働き方改革について考える風土づくりを引き続き行う。

具体的な取組…日々の保育実践（研究・研修）絶えず見直す（評価）

- ・ 家庭との連携
- ・ 地域との連携
- ・ 保小中との連携（特に乾隆小学校との連携、接続）
- ・ 学校運営協議会
- ・ 未就園児の子育て支援事業「さくらんぼ組・いちご組」
- ・ 園庭開放
- 等々

研究主題 子どもたちの“やりたい”をつくり出す保育をめざして